

水稲の「ウンカ類」に注意しましょう

8月上旬の巡回調査(北部地域、泉州地域)で、一部のほ場で、ウンカ類(トビイロウンカ、セジロウンカ、ヒメトビウンカ)の増加が確認されています。平成24年8月7日(火)の泉州地域巡回調査では、和泉市の一部のほ場でトビイロウンカの多発生を確認しました。(100株に約40頭)

早期防除が大切なので、ほ場を見回るなど、発生に注意し、早めの防除を心がけましょう。

○ウンカ類について

・トビイロウンカ(秋ウンカ)

成虫と幼虫が株元付近で吸汁加害し、多発すると坪枯れを起こす。トビイロウンカの多発時には9月上旬～中旬に1～2回防除が必要。この時期の薬剤散布は特に収穫前日数に注意する。

・セジロウンカ(夏ウンカ)

坪枯れにならず、多発するとほ場一面が黄変枯死する。セジロウンカの多発時には7月中旬～8月上旬に1～2回防除が必要。

・ヒメトビウンカ

縞葉枯病を媒介する。縞葉枯病は感染すると回復しないので、ヒメトビウンカの発生初期に防除するなど、予防に努める。

○対策

- (1) ほ場の状況をよく観察し、早期発見に努める。
- (2) 薬剤散布は株元まで十分に薬剤が行き渡るように行う。
- (3) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一グループの薬剤を連用はしない。
- (4) 薬剤防除については、以下の薬剤を参考とする。

・トレボン粒剤(ウンカ類 2～3kg/10a 21日/3回)

・トレボン乳剤(ウンカ類 1,000～2,000倍 21日/3回)

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤(ウンカ類 3,000倍 7日/3回)

・アプロード水和剤(ウンカ類幼虫 1,000～2,000倍 7日/4回)

※薬剤使用にあたっては収穫前日数に注意する。

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府病虫害防除指針(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報検索システム
(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>)

にて確認してください。